

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営とは原則を徹底すること 武井正直（北洋銀行元会長）

1. 「経営とは原則を徹底すること」。社内で常に言っていたのは「3つの原則」です。1つ目は、法令・人倫にもとる行いは、命令であっても断固拒否しろ。拒否しても処罰を受けることはないということ。2つ目は組織を重視して業務運営をしよう。最後に仕事においては調査でも融資でも最善を尽くすこと。そのうえでの失敗なら、これも処罰することはないと。
2. 今ならコンプライアンス（法令順守）といわれるのかもしれませんが、私の意図はもっと深いものです。社員がよって立つべきルールを繰り返し唱えて、原則を踏み外すなよと教育していたわけです。原点が常に頭の中にあれば、正しい行動ができる。そこから使命感や志もわいてきます。その成果でしょう。80年代後半からのバブル時代にも軸がぶれることなく堅実経営ができました。
3. 最近の企業経営を見渡すと、パートタイマーによる人件費の削減とか、マネーゲームとも思える短期利益の追求が目につきます。しかし、そうしたやり方は長く続きません。人を育て使命を果たさなければ成長できないのです。

（参考：「日経ビジネス」2007年7月16日号）

ワンポイント経営アドバイス

社長と社員との一体感を強める

1. 「声かけ力^{ちから}」とは、社長が社員に声をかけることによって生まれる力のことだ。その効果は、取るに足りないように思うかもしれない。しかし、実は実績を上げる方法としてにわかには注目を集めている。声かけが効くのは、①同じ話題を共有することで、コミュニケーションが深まる。②ほめて元気づけることで、社員が前向きな気持ちになる。③何気ない会話で社員の悩みを聞く中で、信頼関係が深まる、等がある。
2. その結果、社長と社員の一体感が少しずつ強まっていけば、社員の定着率は上昇し、社長の思いを理解して仕事に打ち込む社員が増える。それらのことで業績は確実にアップしていくことになる。

（参考：「日経ベンチャー」：2007年9月号）

経営者のための経済学

すさまじいロシア経済

1. 世界のGDP（国内総生産）ランキングを見ると、この数年で顔触れが大きく変わっていることにあらためて驚く。ドル概算（2005年、国際貿易投資研究所）で1位米国、2位日本、3位ドイツ、4位英国、5位中国と並ぶが、たぶん中国はまもなく英国とドイツを抜いて3位になるだろう。ここまでは予想の範囲だが、10位インド、11位ブラジル、12位韓国、13位ロシアとくると、規模でこれらの新興国が世界経済の中心的な存在になっていることがわかる。
2. 新興国では、特にロシア経済の成長に目を見張る。1998年8月の通貨危機で対外債務のモラトリアム（支払い停止）に追い込まれ、欧州諸国などに1300億ドル以上の債務を抱えて破綻の淵であえいでいたロシアは、プーチン政権以降、エネルギー価格の高騰を足がかりに高い成長を遂げてきた。そして昨年中に膨大な対外債務を全部返済したのだ。ロシアはグローバル経済の進展をのみ込みつつ、原油と天然ガスの供給力ですさまじいパワーを発揮し始めている。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2007年7月28日号）

古典に学ぶ

財は公共の物

「財は天下公共の物なり。それ自ら私するを得べけんや。しかも当に之を敬重すべし。濫費^{らんび}すること勿^なれ。蓄用^{しよくよう}すること勿^なれ。之を愛重するは可なり。之を愛惜すれば不可なり」

（訳）財は公共物であるから私物化はできない。敬い重んじなければならぬし、無駄に費やしてはならない。吝^{りんしよく}もいけぬ。愛し重んずることはよいが、惜しみ過ぎてはいけぬ。

（参考：佐藤一斎「言志四録」：PHP文庫）